

報道各位

2015.07.03
No. 150701

麹菌発酵大豆胚芽抽出物『AglyMax®』が体内でエクオールへ代謝することを確認

— 武庫川女子大学との共同研究成果を「医学のあゆみ Vol. 253 No.13 2015」に論文掲載 —

※本文中の特許は存続期間を満了しております。

ニチモウバイオティックス株式会社
代表取締役社長 天海 智博

ニチモウバイオティックス株式会社（本社：東京都品川区。ニチモウ(株)100%子会社）は、健康食品メーカーとして麹菌発酵大豆並びにイソフラボンに特化した研究と開発を行い、日米欧で製造特許を取得した独自の麹菌発酵技術により作られた、世界に唯一の極めて抗酸化力の高いアグリコン型イソフラボン（麹菌発酵大豆胚芽抽出物、商品名：『AglyMax®』）を市場に供給している。また、長年に亘り国内外の多くの著名な大学と共同研究を行い、豊富なエビデンスを蓄積している。

イソフラボンからエクオールへの代謝に関しては明確ではなかったが、このたび、当社は大豆胚芽抽出物（SGE）と発酵大豆胚芽抽出物（FSGE）を用いて、24時間尿中エクオールの排泄量を武庫川女子大学（兵庫県西宮市、理事長：大河原量）との共同研究で、アグリコンイソフラボンである『AglyMax』が体内でエクオールへの代謝量が配糖体イソフラボンの2倍以上多かったことが確認できた。

この研究は、配糖体イソフラボンである大豆胚芽抽出物（SGE）とアグリコンイソフラボンである発酵大豆胚芽抽出物（FSGE、商品名：『AglyMax』）を用いて、24時間尿中エクオールの排泄量について雄性SDラットで検討し、さらに、比較対象としてエクオール群も検討を加えた。

SGE群に比べAglyMax群の24時間尿中エクオールの排泄量が2倍以上を示した。エクオール群と比べSGE群の24時間尿中エクオールの排泄量は有意（ $p < 0.05$ ）に低値を示したが、AglyMax群では24時間尿中エクオールの排泄量はエクオール群とは有意差が認められなかった。

なお、2008年にハーバード大学医学部との大規模な臨床試験では、米国人女性でも『AglyMax』を摂取することで、用量依存的にエクオールへの代謝ができ、エクオール産生者は58.7%であり、『AglyMax』摂取により67.4%と改善された。エクオール産生者の改善率は21.1%であった。体内でのエクオール産生能は食生活と緊密に関連していることが確認できた。

この研究成果は、6月27日に発行された「医学のあゆみ Vol. 253 No. 13」に論文掲載された。なお、本成果は昨年12月に開催された「第50回高血圧関連疾患モデル学会（和歌山）」においても発表した。



以上

【お問合せ先】ニチモウバイオティックス（株）営業部（03-3458-3510）までご連絡ください。